



日本のまんなか
水と緑といで湯の街渋川市

令和6年11月第1回市長定例記者会見

- ・日時 令和6年11月5日(火)
午後1時
- ・場所 市役所本庁舎記者会見室

- 1 映画『ノルマル17歳。－わたしたちはADHD－』の鑑賞会と多彩なゲストとのフリーディスカッションが実施されます(資料1)
- 2 食品ロス削減に向けた取り組みとして規格外野菜を使った郷土料理教室を開催します(資料2)
- 3 第2回「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング(ほめトレ)講座」を11月26日(火)に開催します(資料3)
- 4 令和6年度ふるさと渋川学生奨励金の選考委員会(プレゼンテーション及び質疑応答)を公開します(資料4)

○次回開催予定

日時：令和6年11月11日(月) 午後1時～
場所：渋川市役所本庁舎2階 記者会見室

市長の主な週間日程

月 日	時間	件 名	場 所	所 管
11月5日(火)	9:00	庁議	市役所本庁舎	政策戦略課
	13:00	市長定例記者会見	市役所本庁舎	広報室
	15:00	群馬県市長会議	市町村会館	秘書室
	18:00	自治会長との懇談会(渋川西部地区)	市役所第二庁舎	市民協働推進課
11月6日(水)	9:00	令和6年度フォローアップミーティング	市役所本庁舎	政策戦略課
	11:00	紺綬褒章伝達式	市役所本庁舎	秘書室
11月7日(木)	10:00	渋川市老人クラブ連合会女性部の集い開会式	金島ふれあいセンター	高齢者安心課
11月8日(金)	13:00	12月補正予算市長査定	市役所本庁舎	財政課
	17:00	令和6年度全国スポーツ少年団競技別交流大会出場報告	市役所本庁舎	スポーツ課
11月9日(土)	8:50	上三原田の歌舞伎舞台2024	上三原田の歌舞伎舞台	文化財保護課
	9:30	第7回しぶかわスポーツクラブまつり	中村緑地公園	政策戦略課
	10:40	三原田小学校150周年記念式典	上三原田の歌舞伎舞台	学校教育課
11月10日(日)	10:00	つながるフェスティバル	赤城健康公園ほか	地域包括ケア課
11月11日(月)	9:00	庁議	市役所本庁舎	政策戦略課
	13:00	市長定例記者会見	市役所本庁舎	広報室
	14:30	12月補正予算市長査定	市役所本庁舎	財政課

資料1

映画『ノルマル17歳。－わたしたちはADHD－』の鑑賞会と多彩なゲストとのフリーディスカッションが実施されます

ADHD（注意欠如・多動症）等の発達障害への知識及び理解を深めることを目的に、映画『ノルマル17歳。－わたしたちはADHD－』の鑑賞会と多彩なゲストとのフリーディスカッションが、12月15日（日）に実施されます。

1 概要

ADHD（注意欠如・多動症）等の発達障害への知識及び理解を深めることを目的に映画『ノルマル17歳。－わたしたちはADHD－』の鑑賞会が開催されます。

映画鑑賞後には、教育分野や障害者就労支援分野の専門家をゲストとしてお招きし、映画の感想や、子育て・教育・福祉等に関する考えを参加者同士で共有するフリーディスカッションが実施されます。

この講演会は、誰でも気軽に参加が可能で、子育て及び障害者就労支援、参加者同士の交流促進など、様々な観点から渋川市のまちづくりに資する取り組みとなっています。そのため、市民生活に有益な事業に該当すると認められ、「しぶかわ未来共創推進事業補助金」の交付を受けて実施されます。

2 日 時 令和6年12月15日（日） 午前10時30分～午後3時

3 会 場 渋川市勤労福祉センター（渋川市石原1629-1）

4 内 容

(1) 映画『ノルマル17歳。－わたしたちはADHD－』の鑑賞（90分）

※映画鑑賞後30分間の休憩時間があります

(2) 多彩なゲストとのフリーディスカッション（150分）

フリーディスカッションは、各自持ち込んだお弁当を食べながら、和やかな雰囲気で行われます。なお、現地にてキッチンカーで購入も可能です。

【ゲスト】

・木村 泰子（きむら やすこ）さん

「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちの協力で設立された大阪市立大空小学校の初代校長。現在は、全国各地で講演活動を行っています。

・上原 篤彦（うえはら あつひこ）さん

公認心理師・臨床発達心理士・発達を支える現場に携わる人たちの会主宰であり、共愛学園前橋国際大学短期大学部こども学専攻教授を務めています。

・峯岸 幸弘（みねぎし ゆきひろ）さん

言語聴覚士の資格を持ち、群馬大学共同教育学部特別支援教育講座客員教授を務めています。

・笠井 勇哉（かさい ゆうや）さん

一般社団法人ワークスタジオ群馬の所長で、個々の特性・目標に合わせた就労支援を行っています。

5 入 場 料 無料

6 定 員 50人

7 参加方法

Googleフォーム（右の二次元コード）で申し込むか、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、職業をメール（happy_doragon117@yahoo.co.jp）で送信してください。

※チラシの二次元コードからも申し込みできます



8 申込期間 令和6年11月8日(金)～12月4日(水) (先着順)

9 主 催 なないろのMORI

10 記者会見出席者

なないろのMORI 代表 永井 一十三（ながい ひとみ）さん

参考

1 映画『ノルマル17歳。－わたしたちはADHD－』について

2人のADHDの女子高生の物語です。「普通のものさし」で見ると彼女たちは問題児ですが、そんな「普通のものさし」で生きづらさを感じている彼女たちが、「普通」から脱出し、「本当の普通とは何か」に気付いていきます。

この映画は、ADHDとは何かを描いた作品ではなく、「ADHD」と見なされた人やそれを取り囲む人たちが、その「言葉」や「記号」の枠組みの中にとらわれ、その無理解の中で苦悩していく姿を描いています。

私たちの多くが「普通」「常識的」に生きていると思いがちな中で、「自分が思っている普通の世界が本当に普通なのか」を見なおす、心の旅立ちの物語です。

2 なないろのMORIについて

毎月（第2土曜日）お茶会を開催しており、参加者同士が、子育てをしている中で出てくる悩みや不安を共有し、お互いにヒントを与え合いながらサポートをしています。

また、年に1回程度、学びの機会として講演会を実施しており、今年度は、令和6年10月12日に「なないろのMORI 第5回 子育て講演会」を開催しました。

3 しぶかわ未来共創推進事業補助金制度を活用した今後実施予定の講演会

- ・アミューズマーケット in SHIBUKAWA（令和6年11月17日(日)）
- ・「みんなの学校 木村泰子先生講演会」（令和6年12月14日(土)）

※詳しくは、市ホームページ（https://www.city.shibukawa.lg.jp/shisei/seisaku_keikaku/machi_hito_shigoto/p011292.html）をご覧ください。

市ホームページはこちら▶



■問い合わせ先

総合戦略部 部長 鴻田 吉史（内線2410）

担当：政策戦略課（電話0279-25-8419）

課長 小野 篤史（内線2420）

未来戦略係長 齋藤 大輔（内線2423）

映画鑑賞

ノルマル17歳。

— わたしたちは ADHD —

定員
50名

& ゲストとのフリーディスカッション



ADHDに悩むギャルと真面目な女子高生

見た目と行動が派手なギャル女子高生。そして進学校に通う成績の良い真面目な女子高生。そんな正反対の2人には共通する問題点があった。それは、「ADHD」であることだった。ADHD(注意欠如・多動症)とは、発達障害のひとつで、不注意や落ち着きのなさ、衝動的な行動などが、生活に影響をおよぼしている状態のこと。周りの人からは、「ちょっと変わった人」とか「空気の読めない人」と決めつけられてしまうこともある。若者を中心に世界中で発達障害と診断される人が増えていると言われている。映画『ノルマル17歳。』は、ADHDとは何かを描いた作品ではなく、「ADHD」と見なされた人やそれを取り囲む人たちが、その「言葉」や「記号」の枠組みの中にとらわれ、その無理解の中で苦悩していく姿を描いていく・・・私たちの多くが「普通」や「常識的」に生きていると思いがちな中で、「自分が思っている普通の世界が本当に普通なのか」を見なおす、心の旅立ちの物語だ。タイトルの「ノルマル(ノーマル)=普通」にその思いが込められている。

【しぶかわ未来共創推進事業】

後援：渋川市・渋川市教育委員会

多彩なゲストとのフリーディスカッション

～『ノルマル17歳。-わたしたちはADHD-』映画鑑賞会とおしゃべり交流会～
1部では、みなさんと『ノルマル17歳。-わたしたちはADHD-』を鑑賞し
2部では、自身でご用意いただいたランチを食べながら映画の感想含め日常に潜む
様々な困り感に目を向けて“何が考えられるのか”、“何ができるのか”を一緒に
考えてみましょう。正解のない学びの共有ですので気軽にご参加ください。

参加者と学びのパートナーであるゲストが共に考える交流会です。

ゲストには大空小学校初代校長の木村泰子さん、共愛学園前橋国際大学短期大学部
こども学専攻長の上原篤彦さん、群馬大学共同教育学部客員教授の峯岸幸弘さん、
就労移行支援事業所ワークスタジオ群馬の笠井勇哉さんをお迎えします。

より考えを深める充実した時間を共有しましょう。

※お申込み開始は、11月8日（金）からです。

なお、1部・2部ともに参加できる方が優先となります。

定員になりましたら締め切らせていただきますので、ご希望の方は早め
にお申し込みください。

ゲスト紹介



木村泰子さん

教職員や地域の人たちとともに障害の有無にかかわらず、すべての子どもがいっしょに学び合っている「奇跡の学校」
をつくり上げた大空小学校の初代校長先生。2015年には大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画「みんなの
学校」が公開され、大きな反響を呼んだ。この映画は文部科学省の特別選定作品にも選ばれ、現在も全国各地の教育
現場などで自主上映されている。

2015年春に45年間の教員生活を終え、現在は講演やセミナーで全国の人たちと学び合っている。

上原篤彦さん

共愛学園前橋国際大学短期大学部こども学専攻長
公認心理師。臨床発達心理士の群馬支部副支部長。発達を支える現場に携わる人たちの会主宰。
保健医療、福祉、教育、労働等の専門家のネットワーク作りを進めている。
2014、2015年群馬大学教育学部非常勤講師。2020年全国特別支援教育研究連盟表彰。



峯岸 幸弘さん

現：群馬大学共同教育学部特別支援教育講座客員教授
特別支援学校（肢体不自由・知的特別支援学校）計10年 通級指導教室（小中／難聴言語・自閉情緒）計24年
上越教育大学大学院内地留学・高崎市教育委員会学校教育課指導主事（特別支援教育担当）
その他：言語聴覚士（一般社団法人：群馬県言語聴覚士会理事）



笠井勇哉さん

一般社団法人ワークスタジオ群馬理事◇◇株式会社デナリ代表取締役
障害者や難病の方の就労支援及び自立支援施設を群馬県内で運営。引きこもりや閉じこもり人材を活躍人材に育成
するプログラムを展開。障害者雇用向けのサテライトオフィスの運営、飲食事業あがタコ、学習塾ミライシーズ、
企業人材育成プログラム、アウトドアレクリエーションの提供



日時：12月15日（日）10:30～15:00（受付10:15～）

場所：渋川市勤労福祉センター

参加費：無料（昼食は各自ご用意ください）
※当日はキッチンカーの出店もあります

申込方法：右の二次元コードから
申込〆切12月4日（水）



なないろのMORI

お問い合わせメールアドレス：



happy_doragon117@yahoo.co.jp（永井）

資料2

食品ロス削減に向けた取り組みとして 規格外野菜を使った郷土料理教室を開催します

渋川市は、新たな食品ロス削減に向けた取り組みとして、食材の一部に市内の農家から出る規格外野菜を使用して、親子で「もったいない」の心を養う郷土料理教室を、12月14日(土)に実施します。

1 概 要

渋川市は、食品ロスの削減を推進するため、令和3年4月に「渋川市もったいないの心を持って食品ロスの削減を推進する条例」を施行しました。また、令和5年には、「渋川市食品ロス削減推進計画」を策定しています。

令和6年度は、食材の一部に、主に農家が自己消費している規格外野菜を使用して、郷土料理を作る親子料理教室を開催します。この教室は、食べられるのに商品として出回らない、ときに廃棄されてしまう可能性のある農産物があることを知ってもらい、生産者の声を聴くことを通じて、親子でもったいないの心を養い、SDGsの意識を高めることを目的に実施するものです。

渋川市での規格外野菜を使った郷土料理教室の実施は、今回が初になります。

2 日 時 令和6年12月14日(土) 午前9時30分～午後1時30分

3 場 所 渋川市社会福祉センター 2階調理実習室(渋川市渋川1760-1)

4 内 容

- (1) 規格外野菜(サトイモ、ダイコン、長ネギ)を使用して、郷土料理の「おつきりこみ」を作ります
- (2) 農家の方から生産者の思い等の話を聞きます

5 講 師 渋川市食生活改善推進員

6 対 象 者 6歳以上の子どもとその保護者(市内在住・在勤の人)

7 定 員 8組16人(抽選)

8 参 加 料 無料

9 持 ち 物 エプロン、バンダナ、マスク

10 申込方法 応募申込フォーム又は電話で環境森林課(TEL 0279-22-2114)へ

11 申込期間 令和6年11月11日(月)～27日(水)

参考

渋川市の食品ロス削減に向けた主な取り組み

1 しぶかわフードラブ協力店登録制度

食品ロス削減に取り組む市内飲食店を協力店として登録し、市民や渋川市を訪れた人たちに、食品ロス削減の取組を広く周知。

- ・登録店舗数＝58店舗（令和6年9月30日時点）

2 私の食品ロス削減アイデアコンテストの開催

食品ロスの削減を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、行動変容につなげるために、「取組部門」及び「料理部門」の2部門で、令和6年7月12日～9月13日までの間、食品ロスの削減につながるアイデアを募集。

- ・応募件数＝「取組部門」：4件、「料理部門」：9件

3 フードドライブの実施

「手つかず食品」などの食品ロスの削減やフードドライブ活動の推進を目的として実施。令和6年9月26日に実施し、回収品（点数：1360点 重量：212kg）をフードバンクに提供して地域の福祉支援に活用。また、フードドライブ活動を支援するために、コンテナやのぼり旗等の資材を貸し出し。

- ・次回の実施予定は、令和7年1月14日（火）
- ・フードドライブ資材貸出実績＝4件

4 市公式YouTubeを活用した啓発

若い世代への啓発を効果的に行うために、渋川市食品ロスなくし隊による食品ロスの基礎知識、食品ロスの問題点を解説した動画を作成し、YouTubeで配信。

- ・アドレス＝https://youtu.be/1X_-0609hgc
エルエックス ゼロロクオーキュー

※動画はこちらの二次元コードから▶



■問い合わせ先

市民環境部 部長 田中 良（内線1100）

担当：環境森林課（電話0279-22-2114）

課長 入澤 仁（内線1140）

環境政策係長 小林 哲彦（内線1146）

資料3

第2回「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング (ほめトレ) 講座」を11月26日(火)に開催します

渋川市は、「育都（いくと）」を実現するための取り組みとして、ほめて育てる子育て「ほめ育」を推進しています。推進に当たり、子育て中の保護者などを対象に、令和6年度第2回「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング（ほめトレ）講座」を開催します。

1 概 要

渋川市は、「育都」を実現するための取り組みとして、保護者が子どものいる幸せを実感し、良好な親子関係を築くことができるよう、ほめて育てる子育て（略称：ほめ育）を推進しています。保護者が子どものあるがままを受け入れ、子どもをほめたり、認めたり、子どもの気持ちに共感したりする声かけによって、子どもの自己肯定感が高まり自主性と自信を育む効果が期待できます。そして、良好な親子関係を築くことにつながります。

この「ほめ育」を推進するため、令和6年度第2回の「ほめて育てるコミュニケーション・トレーニング（通称：ほめトレ）」講座を開催します。

本講座は、良好な親子関係を目指す群馬県オリジナルの子育てプログラムです。ほめる子育ての意義や子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶことができます。

2 日 時 令和6年11月26日(火) 午後1時30分～3時30分

3 場 所 子育て支援総合センター 多目的ホール（渋川市渋川1338-4）

4 講 師 群馬県公認 ほめトレ・トレーナー 坂井 勉 氏

5 対 象 者 ・ 概ね3歳から小学5年生のお子さんの保護者
・ 講座内容に興味のある人

6 定 員 20人（先着順）

7 参 加 料 無料
※当日は、無料で託児サービス（対象年齢＝0～3歳・上限6人）
を利用できます

8 申込方法

氏名（ふりがな）、住所、電話番号、託児希望の有無を、電話（0279-22-1880）またはメール（syoushikataisaku@city.shibukawa.gunma.jp）でこども政策課へ申し込んでください。

※メールの場合は、件名を「ほめトレ講座申込」として送信してください

※託児を希望する場合は、子どもの氏名・生年月日・性別もお知らせください

9 申込期間 令和6年11月7日(木)～11月19日(火)

10 周知方法

「広報しぶかわ」11月号、市ホームページ、市公式LINE、しぶかわ子育て応援なび（子育て支援ウェブサイト）への掲載、チラシの配布などにより周知します。

11 その他

- (1) 本講座は第1回を7月に開催しました。第2回は9月の開催を予定していましたが、諸般の事情により11月に変更しました。第3回は令和7年2月の開催を予定しています。
- (2) 渋川市は、本講座開催のほか、毎月、広報しぶかわ及びしぶかわ子育て応援なび（子育て支援ウェブサイト）で、日常生活の事例を挙げながら「ほめ育」のコツを紹介しています（下記「参考」参照）。

参考

1 第1回ほめトレ講座の参加者から寄せられた感想

- ・ほめて育てることが良いと聞いていた。具体的にどのようにしたらいいのか曖昧だったが、具体的な方法を知ることができた。少しずつ実践してみたい。
- ・子どもを叱ってばかりいたが、今日からこどもへの向き合い方を少しずつ変えていきたい。
- ・子どもを怒ったり、注意したりすることが多かったが、こどもの気持ちに寄り添い、自分自身を変えたいと思った。
- ・当たり前のようにしていることでも、ほめることはたくさんあると気づいた。

2 広報しぶかわ及びしぶかわ子育て応援なびで紹介した声かけ事例とポイント

- ・5月号＝食器の後片付けをしようとして、落として割ってしまったときの声かけ
- ・6月号＝かけっこの練習をしたが、本番で3着だったときの声かけ
- ・7月号＝目覚まし時計をセットしたが、起きることができなかったときの声かけ
- ・8月号＝箸を上手に使えないときの声かけ
- ・9月号＝宿題をしないで遊んでいるときの声かけ
- ・10月号＝お店で走り回って転んだときの声かけ
- ・11月号＝葬儀に参列した場面での声かけ

■問い合わせ先

育都推進部 部長 角田 義孝（内線1150）

担当：こども政策課（電話0279-22-1880）

課長 松下 恵子（内線1219）

政策推進係長 柴崎 智広（内線1243）

令和6年度ふるさと渋川学生奨励金の選考委員会 (プレゼンテーション及び質疑応答) を公開します

渋川ライオンズクラブからの寄附金を原資とする「こども夢基金」を活用し、将来、渋川市に貢献しようとする志のある人材を支援する、「令和6年度ふるさと渋川学生奨励金」の給付対象者選考委員会を、11月9日(土)に開催します。
今回の選考委員会では、応募者による提案内容のプレゼンテーションと、選考委員からの質疑応答を公開します。

1 概 要

「ふるさと渋川学生奨励金」は、奨励金を給付することにより、将来、渋川市に貢献しようとする志のある人材の夢の実現を奨励し、支援するものです。

この奨励金は、応募者が「将来渋川市のためにどのように貢献したいか」を記載した提案書を提出し、選考委員会による審査を経て、給付対象者を決定します。

今回開催する選考委員会では、一次選考を通過した3人がプレゼンテーションを行い、選考委員会からの質疑応答があります。

2 選考委員会

- (1) 日 時 令和6年11月9日(土) 午後1時30分～
- (2) 場 所 渋川公民館 講堂(渋川市役所第二庁舎1階)
- (3) 選考対象者 一次選考通過者3人(高校生2人、大学生1人)
- (4) 委 員 教育長、教育委員(4名)、渋川ライオンズクラブ会長

3 令和6年度ふるさと渋川学生奨励金の募集について

- (1) 奨励金の金額 10万円(1人1回を限度とし、返済の必要はありません)
※この奨励金は、渋川ライオンズクラブからの寄附金を原資とする、こども夢基金を充当しています
- (2) 応募者の要件
 - ア 渋川市に住所を有し、応募時に高等学校、中等教育学校(後期課程に限る)、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校(高等課程又は専門課程に限る)又はこれに準ずる学校に在学する者
 - イ 過去に渋川市に1年以上住所を有していたことがあり、かつ、応募時にアに示す学校に在学する者
 - ウ 渋川市内にある県立の高等学校又はこれに準ずる学校に在学する者
 - エ 渋川市内にある県立の高等学校又はこれに準ずる学校を卒業し、応募時に大学、短期大学、高等専門学校、専修学校又はこれに準ずる学校に在学する者
- (3) 応募書類 申請用紙及び自分自身が将来、渋川市のためにどのようなことを、どのような形で貢献したいと考えているかを1,200字程度で記した提案書
- (4) 選考内容 提案書の内容等により一次選考を実施。二次選考は、一次選考を通過した応募者によるプレゼンテーション及び質疑応答を公開で実施

4 令和6年度の募集スケジュール

- (1) 募集期間 令和6年4月15日(月)～9月2日(月)
- (2) 一次選考 令和6年9月30日(月)
- (3) 二次選考 令和6年11月9日(土)
- (4) 給付対象者の決定と結果通知 令和6年11月(予定)

参考

過去の給付実績（敬称略）

R 2 年 度	君島 誠一 (大学生)	提案書のテーマ「ロシア人観光客誘致に関する提案書」 ロシア人観光客を呼び込めるよう、自身が学ぶロシア語を生かして、伊香保温泉や創作こけしを資源とした渋川市の魅力などの情報を発信し貢献したい。
R 3 年 度	塩浦 桃蘭 (専門学校生)	提案書のテーマ「私が渋川市に将来貢献したいこと」 保育の領域と介護の領域の両方の社会福祉の学びをいかして、子ども一人ひとりの個性や気持ちを大切にできる、介護の知識を持った保育者として、渋川市に貢献したい。
	ゲルン アニタ (専門学校生)	提案書のテーマ「第二の故郷渋川市に貢献したいこと」 介護福祉士として、入居者と家族にも幸せを感じてもらえる丁寧な介護をし社会に貢献できるようになること。渋川市と母国ネパールの架け橋になることで貢献したい。
R 4 年 度	小池 雪 (専門学校生)	提案書のテーマ「子どもが穏やかな雰囲気の中で育ち、保護者が安心して子育てできる渋川市」 保育実習を通じて自分の良さを発見できた。子どもたちが伸び伸び成長でき、保護者が安心して子どもを預けられる保育士を目指し、渋川市で活躍できるように成長していきたい。
	山田 ゆめり (専門学校生)	提案書のテーマ「私が将来渋川市に貢献したいこと」 介護施設の利用者の尊厳を保持し、その人らしさを引き出す支援ができる介護福祉士になりたい。また、地域の行事と活動に参加し、行事の楽しさを発信して盛り上げていきたい。
	樋口 諒祐 (高校生)	提案書のテーマ「僕が将来渋川市に貢献したいこと」 白井城の再建という夢を持ったことから、地元の魅力を知ってもらいたい、地域の人が元気に働ける場所をつくりたいと考えるようになった。大学に進学して見聞を広め、地域の良さを日本全国だけでなく世界へ発信していきたい。
R 5 年 度	樋田 果保 (大学生)	提案書のテーマ「渋川市の子どもたちがより充実した人生を歩むために私にできること」 大学での学習やボランティアを通じて、教員になりたいという思いが強くなった。渋川市の子どもたちに学ぶ楽しさを伝え、子どもの「やってみたい」を引き出す教員になりたい。
	一場 咲穂 (大学生)	提案書のテーマ「私が将来渋川市に貢献したいこと」 大学で学んだマーケティングや地域プロモーションを活かし、大学進学を機に渋川市の外で暮らして気づいた渋川市の魅力を発信することで、渋川市に貢献したい。
	後藤 弘道 (高校生)	提案書のテーマ「私が将来渋川市に貢献したいこと」 大学入試に向けて学習に励むうち、渋川市内の学習室に「入試対策センター」を作る夢を抱いた。将来は教員になり、施設の実現に向けて渋川市への働きかけを行いたい。

■問い合わせ先

教育部 部長 斉藤 章吉（内線4930）

担当：教育総務課（電話0279-22-2076）

課長 西島 薫（内線4940）

管理係長 山賀 真奈美（内線4946）